



# 九条の会. ひがしなだ ニュース

第51号

2014年4月

事務局 中村陽一 Tel&Fax 811-4562 E-mail [youichi-nakamura@kcc.zaq.ne.jp](mailto:youichi-nakamura@kcc.zaq.ne.jp)

## 私のひとこと

先日、前泊さんの講演を聞き、なるほどと感動した。憲法の上に日米地位協定がある、まるで植民地国のような。私は、45年前に、パスポートを取って日本復帰以前の沖縄を取材した頃のことを思い出した。あらためて心を打たれた。

いま、いけいけ、ドンドン、右へ右へ、戦争に参加できる国づくりが進みだした。危険な国になってきた。逆に、憲法9条の大切さを訴えるチャンスではあるが、力が弱い。いらだちを覚える。憲法は、国民主権、国の主人公の基本だ。日常的に憲法を活かすことが急務だ。

現状の政治、社会に対して無関心な人々が多いのも事実。これらの層へ、私たちが、知人、友人、孫、から、酒飲みの場合でも、憲法9条のこと、戦争のこと、知らせ伝えていく地道な努力が急がれている。目先の対応も大切だが、足腰を鍛え、「倍返し」をする日が必ず来ることを信ずる。

あなたの周りの、知力、資力を挙げて、九条の会に力を貸して下さい。二度と再び戦争をさせないために！

(九条の会. ひがしなだ 世話人 稲荷 真三)



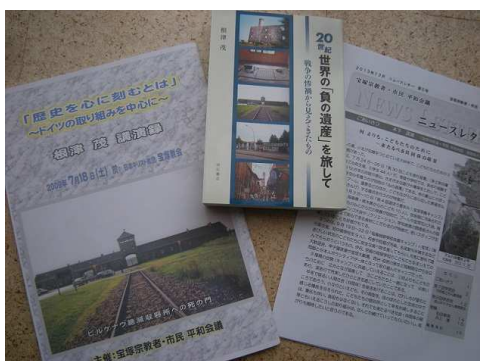
## 今年度の大きな活動スケジュール

3月の世話人会で、今年度はおよそ次のような取り組みを行うことを決めました。

- 4月後半 : 安倍政権が閣議決定で憲法解釈を変え集団的自衛権を認めようとする動きを強める一方で、「ナチスに学んではどうかね」という発言が飛び出したり、「アンネの日記」が大量に破かれる状況が生まれています。そこで、ドイツにおけるナチスの勃興と戦後の清算と総轄などのドイツ現代史をしっかりと学ぶ学習会を持つことにしました。講師は真宗大谷派僧侶で甲南高等学校・中学校非常勤講師の根津茂さんです。
- 4月以降 : 世話人会で、「もっと若者との接触を深める必要がある」という問題提起が有り、それを具体化するために世話人会の中にプロジェクトチームを作って具体化の検討を進めることにしました。議論の中で、JR住吉駅の南側で、定期的に路上ライブをやるのはどうかとか、世話人全員に、それぞれの人がなぜ九条の会の運動にかかわるのかという原点を尋ね、それを若者にぶっつけて議論してみるのも面白いのでは、という意見が出ました。
- 6月頃 : 6月ごろに、史跡・戦跡めぐりの会を魚崎を中心に催したい、という提案がありました。魚崎や深江には史跡や戦跡はあまりありませんが、お金持ちや外国人が建てた別荘などが現存していることから、文化の香りが残っており、直接民主主義や昭和モダニズムの痕跡なども垣間見えるので、それを掘り起こしてみたいという発言もありました。

- 8月頃：4月の「ドイツ近現代史に学ぶ講演会」と対をなす企画として、歴史認識問題を中心に、「歴史の真実を探る」と言ったテーマの講演会を持ってはどうか、という提案がありました。講師としては、民族差別撤廃や多文化共生などの著作や発言が多数ある辛淑玉（シンスゴ）さんをお願いしては、という意見が出され、次回世話人会までに費用面などの調査を行うことにしました。
- 10月、12月頃（1）：前の世話人会で、国民保護法との関連で自衛官に、有事の際、国民を具体的にどのように保護するのかを直接聞いてみたいという意見がでました。しかし、その前にまず「国民保護法とは何か」という学習会を持つべきではないかという意見が出され、その方向で準備を進めることにしました。その上で、自衛官を呼ぶかどうか議論します。
- 10月、12月頃（2）：戦争体験で加害者の立場から語ってくれる語り部を探して、是非、話が聞きたいという提案がありました。また、二人の方に語って頂ければ、現在、堀之内八郎さんの戦争体験の手記があるので、それと合わせて、パンフレット「シリーズ 私の戦争体験（4）」が発行できる、という意見もありました。（中村）

## 4月26日に学習講演会 ドイツ現代史に学ぶ“戦争責任”



好評な根津さんの本と講演録

慰安婦は、日本だけではない」と、声高に叫ぶ“靖国史観”が目立つ安倍・暴走政権の改憲姿勢と、決して無関係ではないでしょう。そうした背景には何があるのか、また、それを生み出してきた土壌は何か、戦争責任の追及やその教訓の活かし方において、どうして日本とドイツに、これほど大きい差があるか……。

そうした問題意識から、「九条の会・ひがしなだ」では、4月26日（土）午後6時半開演で、加害責任・負の遺産にも、しっかり踏み込んだ学習講演会を行います。

語るのは、真宗大谷派の僧侶で、甲南高等学校・中学校（芦屋市）の講師でもある根津茂さん、という異色の組み合わせ。

根津さんには、『20世紀世界の「負の遺産」を旅して～戦争の惨禍から見えてきたもの』という、全326ページにも及ぶ大著（明石書店）があります。このうち、「日中の戦争と苦難の中国近現代史を歩く」には、台湾を含めれば56ページ）を当てています。

また、ヨーロッパ編では、『過去の克服』とは「アウシュビッツへの道～チェコとポーランドにおける戦争とホロコーストの現場を訪ねて」「過去を記憶し続ける国・ドイツを訪ねて～かつての加害者は、どう向き合っているのか」に、68ページ……といった具合です。

根津さんは1959年神戸市生まれ。1982年甲南大法学部卒業後、会社員を経て、1994年から真宗大谷派僧侶（大阪教区所属）、1996年から甲南高等学校・中学校の非常勤講師を兼ねています。

さらに、私学九条の会のメンバーとしても活躍。『歴史を心に刻むとは～ドイツの取り組みを中心に～』と題して、2009年7月18日に日本キリスト教団宝塚教会でおこなった講演（主催＝宝塚宗教者・市民 平和会議）は、立派なパンフに記録され、名講演と語り継がれています。（田所）

## 宝塚で、秘密法廃止・市民の会が発足 個人で参加、「右から左まで」1,000人めざす

宝塚市で3月22日、「秘密保護法の廃止を求める市民の会・宝塚」が、正式に発足しました。昨年12月6日の強行採決を受けて、急速に「市民の会を作って廃止に追い込もう」という声が強まり、準備会を重ねて、この日の宝塚西公民館での結成総会に至ったものです。

結成総会には、宝塚以外の市民も含めて、弁護士、宗教者、芸術家、議員ら100人近くが参加し、秘密法廃止に向けての決意を固めました。同会では当面、賛同人を1,000名まで増やしたい、としています。



「悪法は許さない」と、市民が立ち上がった

特徴的なことは、「立場の違いを超えて、秘密法廃止の一致点で右から左まで、あらゆる人に集まってもらいたい」という配慮から、一切の肩書ははずし、全員が「全くの個人として参加」していること。たとえば、総会で承認された8人の世話人をみても、3人が現職および元の市議会議員ですが、そうとは名乗らず、2人の住職、2人の弁護士もまた同様です。

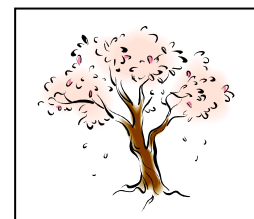
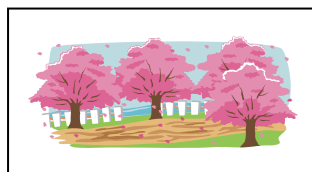
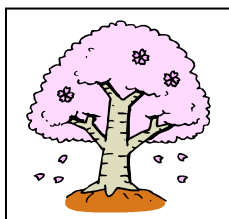
いずれも、決して「名誉職」ではなく、キチンと各種会合にも出席し、発言・行動することが当然視されており、総会后にさっそく集まって4月の会合予定も相談し、具体化されました。

準備会以前の段階から奔走し、総会で選出された8人の事務局員の中には、九条の会メンバーも複数いますが、ここでも裏方に徹しており、中でも謙虚に奮闘する若手議員の働きぶりが、静かな光彩を放っています。

この日は、宗教関係者の参加が多く、紹介もされて、今後の交流の広がりが期待されています。

総会では、宝塚市在住の杉島幸生弁護士（関西合同法律事務所＝大阪）が「秘密保護法、ここが危険！！」と題して記念講演。①行政秘密を守るための仕組みは、すでにある ②これまで、秘密が漏れて社会が危機に陥ったということは、一度もない ③濫用を防ぐ仕組みは極めて不十分——として、「秘密保護法が必要だという人と、どう対話を広げていくのか」と、課題を提起しました。

正式発足した「秘密保護法の廃止を求める市民の会・宝塚」では、4月13日（日）17:30～JR・阪急宝塚駅前を皮切りに順次、各駅頭回り持ちの廃止署名・宣伝行動を、月1回のペースで計画。集まった署名は、兵庫県弁護士会を集約団体として、日弁連を経て、安倍首相と衆・参両議院の議長あてに、提出する予定です。（田所）





## 東灘図書館・県立図書館に寄贈 戦争体験パンフに礼状

新装なった東灘図書館（旧区役所跡）に2月21日、「シリーズ 私の戦争体験」（1）（2）（3）を、神戸空襲を記録する会の玉井洋子さんと一緒に、寄贈してきました。

すると、各区図書館の“本部”に当たる神戸市中央図書館（大倉山公園の入り口）から、2月28日付で、「このたびは貴重な資料をいただき、ありがとうございました。あつくお礼申し上げます。ご厚意に添うよう広く市民の利用に供していきたいと存じます」という、ご丁寧な礼状が届きました。その後、問い合わせてみますと、「中央図書館で閲覧可能にする」とのこと。

玉井さんが所属する現代詩協会では、各区の図書館だけでなく、国会図書館などにも寄贈して、「永久保存して貰っている」とのことです。 (田所)

また、明石公園にある県立図書館には、既に、（1）と（2）は寄贈済でしたが、新たに（3）を寄贈したところ、同様な、丁寧な礼状が届いています。 (中村)

## 九条の会訪問記（その27） 神戸教職員九条の会 主要駅頭で毎月憲法署名 「教え子を戦場に送るな」と



神戸教職員九条の会（教育九条の会）のメーンスローガンは、「教え子を戦場に送るな」。

1991年に全日本教職員組合（全教）が結成され、神戸でも、連合日教組に加盟していた公立小中学校の教職員たちは、新しく「全教神戸」を作りました。さらに2004年、大江健三郎さんら著名9氏の呼び掛けに応じて、いち早く教育九条の会を結成しました。

メーンスローガンをいつも掲げて

以来、足掛け10年にわたって毎月、東はJR「住吉」駅から、西は地下鉄「西神中央」駅まで、主要9つの駅頭で署名

宣伝活動を続けています。主な役員の現役時代に結成した九条の会も、今では退職教員が中心となっていますが、“憲法九条を守ろう”の署名宣伝活動は、全教神戸の退職教員の会の大切な活動になっています。

また、退職教員の会の総会や望年会では、その時々課題をテーマに、学習会を持っています。「憲法を手のひらに」の著者である古賀哲夫さん、「イラク戦争と日本の自衛隊」をテーマとした田母神氏への批判は田中敏夫さん、そして、「集団的自衛権」は森原健二さんにお話を聞き、それらの内容を、毎月の「退職教ニュース」で、知らせしています。

九条の会の竹中登会長は、今後、「原子力発電、沖縄の米軍基地、非核神戸方式など、たくさん問題を考えながら、憲法署名を街頭で続けていきたい」と、語っています。

2014年に入ってから、1月11日（土）のJR「住吉」駅、2月は荒天のため中止したとはいえ、3月は8日（土）の午前11時から12時まで、JR「六甲道」駅前で、憲法署名を行ない、参加12名で77筆を集めました。1人で22筆も集めた人もいます。小学校4、5年生から中学生、高校生たちが署名に応じました。

この日は、神戸大学の合格発表の日だったためか、発表を見に来た学生たちが5人ほど固まって、にぎやかに署名。合格した子もしなかった子も、機嫌よく署名してくれたのが、印象的でした。

暖かい日差しだったせいか、あちこちで空襲について話しこんでいる姿がありました。神戸空襲の大きな写真を貼っていると、それを見つめながら話している人もいました。

この日は、いつもより署名に応じる人が多かったようで、安倍内閣の「戦争する国づくり」への動きを、心配しているのかもしれませんが。

教育9条の会のメンバーは、それぞれ居住地の九条の会にも積極的に参加し、大きな役割を果たしています。須磨区の友が丘・多井畑九条の会（車木蓉子代表）のニュース第97号（1月25日付）には、村井湛さんの「タクシー運転手の差し入れ」と題するレポートが掲載され、1月11日のJR「住吉」駅での署名宣伝行動も、この紙面を通じて東灘に伝わった次第。

縁もゆかりもない、遠方の駅まで出かけて行って署名集めをするほどの人は、それほど多くはないはず、地元には必ず協力者がいるはずだ、と推測して問い合わせたところ、ざっと5人ほど、東灘在住者の名前があがってきました。こうした紹介によって、また、新たな結び付きが広がっています。（田所）



毎月1回の駅頭署名を継続

## **これからの催し物**

**★★★☆☆ 5月3日（土・祝）13時半～**

### **神戸憲法集会**

主催：神戸憲法集会実行両委員会

場所：神戸市芸術センター2F「芸術劇場」（新神戸駅から徒歩4分）

講演：内田樹さん（神戸女学院大学名誉教授） 「グローバル化と国民国家の危機」

特別報告：上脇博之さん（兵庫県憲法会議事務局長、神戸学院大学大学院教授）

「憲法を取り巻く情勢」

資料代：¥1,000

連絡先：☎ 078-351-0677（兵庫県憲法会議）

**★★★☆☆ 6月1日（日）10時～**

### **神戸空襲の碑刻銘追加式**

主催：神戸空襲を記録する会

場所：神戸空襲を忘れない、いのちと平和の碑前（大倉山公園）

**★★★☆☆ 8月23日（土）13時～17時半頃**

### **第44回空襲・戦災を記録する会全国連絡会議 神戸大会**

主催：神戸空襲を記録する会

場所：神戸市立御影公会堂

※ 翌24日（日）は、神戸空襲の碑見学などフィールドワーク

